

シェーグレン症候群患者の 口の乾きに関する調査 結果報告書

2018年9月10日
株式会社QLife

■調査主体： 株式会社QLife(キューライフ)

■実施概要：

- (1) 調査対象： 過去6か月以内に医療機関を1回以上受診した、シェーグレン症候群の患者
- (2) 有効回収数： 100人
- (3) 調査方法： インターネット調査
- (4) 調査時期： 2018年8月10日～ 8月13日

※本調査はキッセイ薬品工業株式会社のスポンサーのもと実施。

■本調査に関するお問い合わせ先

株式会社QLife QLife編集部 田中智貴 /TEL : 03-6860-5020 E-mail : info@qlife.co.jp

患者背景

(1) 性別

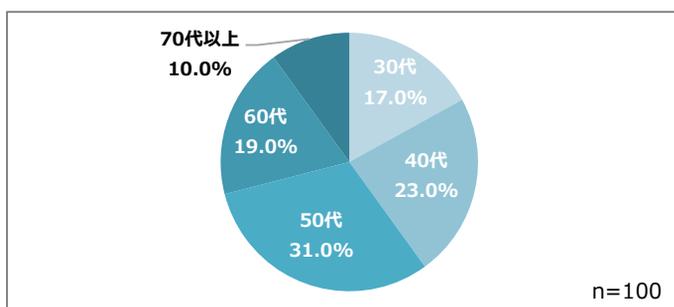
	SA	
	n	%
男性	0	0.0%
女性	100	100.0%
総計	100	100.0%

(2) 都道府県

n=100												
北海道	青森県	岩手県	宮城県	秋田県	山形県	福島県	茨城県	栃木県	群馬県	埼玉県	千葉県	
13.0%	0.0%	1.0%	3.0%	0.0%	1.0%	1.0%	0.0%	1.0%	1.0%	5.0%	4.0%	
東京都	神奈川県	新潟県	富山県	石川県	福井県	山梨県	長野県	岐阜県	静岡県	愛知県	三重県	
11.0%	9.0%	0.0%	0.0%	1.0%	0.0%	0.0%	1.0%	0.0%	4.0%	4.0%	1.0%	
滋賀県	京都府	大阪府	兵庫県	奈良県	和歌山県	鳥取県	島根県	岡山県	広島県	山口県	徳島県	
0.0%	3.0%	8.0%	7.0%	1.0%	0.0%	0.0%	0.0%	3.0%	2.0%	0.0%	0.0%	
香川県	愛媛県	高知県	福岡県	佐賀県	長崎県	熊本県	大分県	宮崎県	鹿児島県	沖縄県		
3.0%	1.0%	2.0%	2.0%	0.0%	1.0%	2.0%	2.0%	1.0%	1.0%	0.0%		

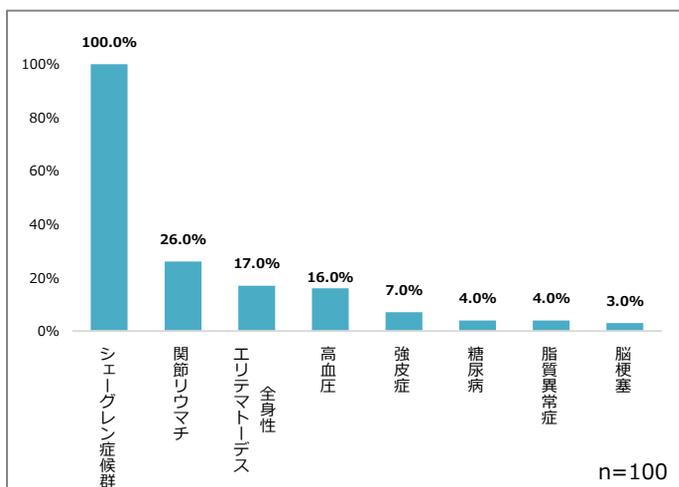
(3) 年代

	SA	
	n	%
30代	17	17.0%
40代	23	23.0%
50代	31	31.0%
60代	19	19.0%
70代以上	10	10.0%
総計	100	100.0%



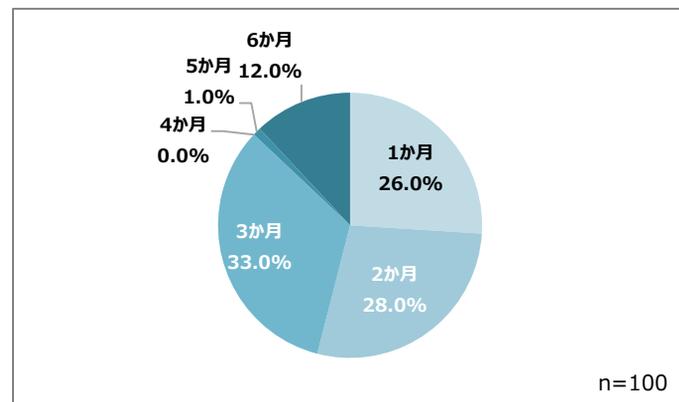
(4) 病院で診断されたことがある疾患

	MA	
	n	%
シェーグレン症候群	100	100.0%
関節リウマチ	26	26.0%
全身性エリテマトーデス	17	17.0%
高血圧	16	16.0%
強皮症	7	7.0%
糖尿病	4	4.0%
脂質異常症	4	4.0%
脳梗塞	3	3.0%
総計	100	177.0%



(5) シェーグレン症候群のために何か月ごとに受診しているか

	SA	
	n	%
1か月	26	26.0%
2か月	28	28.0%
3か月	33	33.0%
4か月	0	0.0%
5か月	1	1.0%
6か月	12	12.0%
総計	100	100.0%



結果概要

◀◀口の乾き▶▶

シェーグレン症候群患者の95%は「口の乾き」を自覚
そのうち、61%が「とてもつらい」「ややつらい」とつらさを感じている

60代患者の74%が「とてもつらい」「ややつらい」
診断されてから「6～10年」の患者の3人に2人が「つらさを感じる」

◀◀口の乾きにより発現する症状▶▶

口の乾きのあるシェーグレン症候群患者の約4人に3人が口の乾きが原因で「口臭が気になる」「虫歯が増える」
症状を自覚している患者の半数以上が「話しにくい（会話障害）」「食べにくい（摂食・嚥下障害）」「虫歯が増える」ことに「つらさを感じている」

患者の半数以上が「話しにくい（会話障害）」「食べにくい（摂食・嚥下障害）」「よく眠れない（睡眠障害）」「口臭が気になる」「口内炎がしやすい」「虫歯が増える」「風邪、口腔カンジダ症など感染症にかかりやすい」の自覚あり

◀◀口の乾きのための治療▶▶

患者の31%が「唾液分泌促進薬」の治療を受けている
一方、49%が「使っている薬はない」

◀◀口の乾きのための治療満足度▶▶

患者の19%が「とても満足」「やや満足」
一方、41%が「あまり満足していない」「まったく満足していない」

唾液分泌促進薬を使用した患者の32%が「とても満足」「やや満足」
唾液分泌促進薬以外（人工唾液、ジェル、軟膏など）を使用した患者の20%が「とても満足」「やや満足」
治療を受けていない患者の10%が「とても満足」「やや満足」

◀◀唾液分泌促進薬の処方▶▶

現在、口の乾きによるつらさを感じている患者のうち38%の患者は、過去から一度も唾液分泌促進薬の処方を受けたことはない

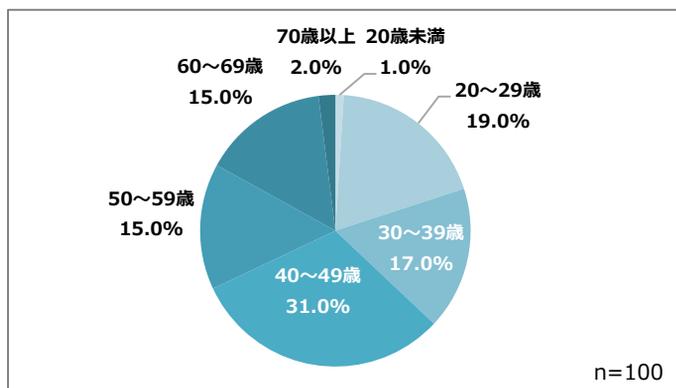
◀◀医師に望むこと▶▶

口の乾きにつらさを感じている患者の60%が「口の乾きを治して欲しい」
様々な情報や病態について教えて欲しいと思っている

調査結果

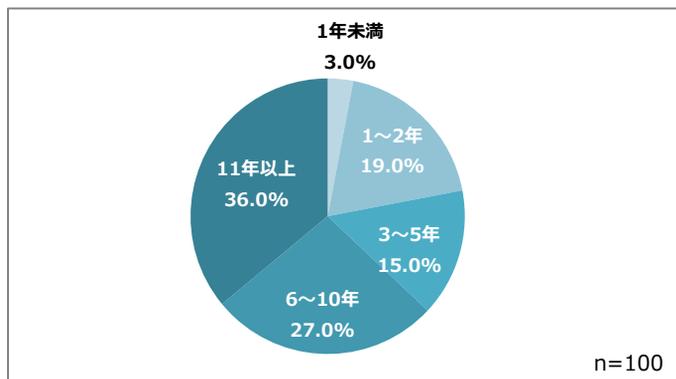
Q1. シェーグレン症候群と診断されたのは何歳のときでしたか。

	n=100		SA	
	n	%	n	%
20歳未満	1	1.0%		
20～29歳	19	19.0%		
30～39歳	17	17.0%		
40～49歳	31	31.0%		
50～59歳	15	15.0%		
60～69歳	15	15.0%		
70歳以上	2	2.0%		
総計	100	100.0%		



Q1-1. シェーグレン症候群と診断されてからの期間

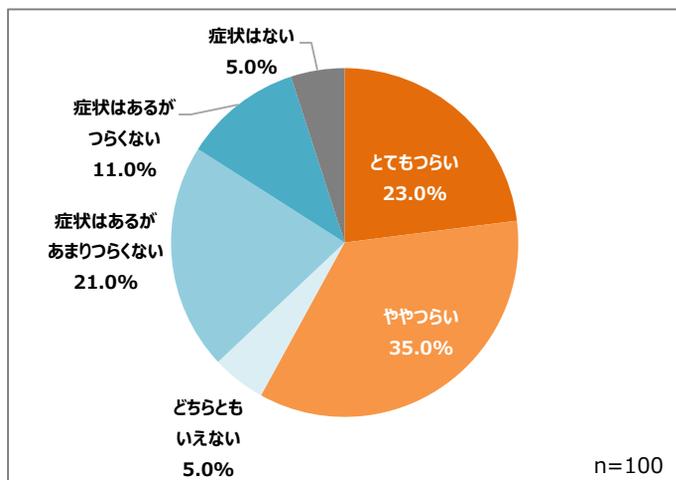
	n=100		SA	
	n	%	n	%
1年未満	3	3.0%		
1～2年	19	19.0%		
3～5年	15	15.0%		
6～10年	27	27.0%		
11年以上	36	36.0%		
総計	100	100.0%		



Q2. この3か月を振り返り、口の乾きに対して最も近いと思われるつらさの感じ方を教えてください。

58%の患者が「とてもつらい」「ややつらい」と回答した。

	n=100		SA	
	n	%	n	%
とてもつらい	23	23.0%		
ややつらい	35	35.0%		
どちらともいえない	5	5.0%		
症状はあるがあまりつらくない	21	21.0%		
症状はあるがつかうくない	11	11.0%		
症状はない	5	5.0%		
総計	100	100.0%		

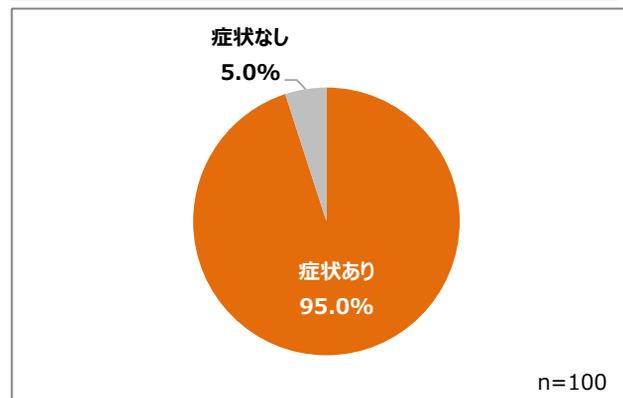


Q2.この3か月を振り返り、口の乾きに対して最も近いと思われるつらさの感じ方を教えてください。 (続き)

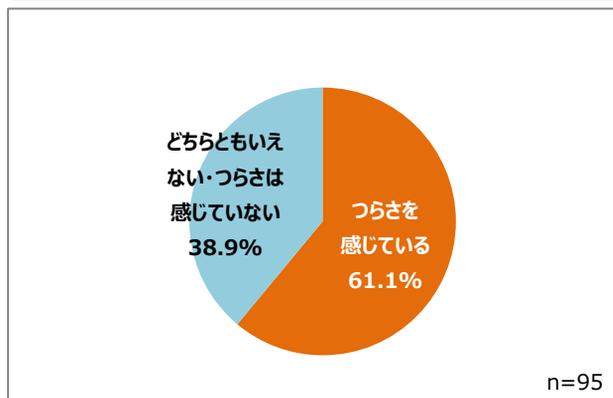
口の乾きの自覚とそのつらさ

95%の患者が口の乾きの症状を自覚。そのうち、61%の患者がつらさを感じていた。

	n=100		SA	
	n	%	n	%
症状あり	95	95.0%		
症状なし	5	5.0%		
総計	100	100.0%		



	n=95		SA	
	n	%	n	%
つらさを感じている	58	61.1%		
どちらともいえない・つらさは感じていない	37	38.9%		
総計	95	100.0%		



「とてもつらい」、「ややつらい」：つらさを感じている

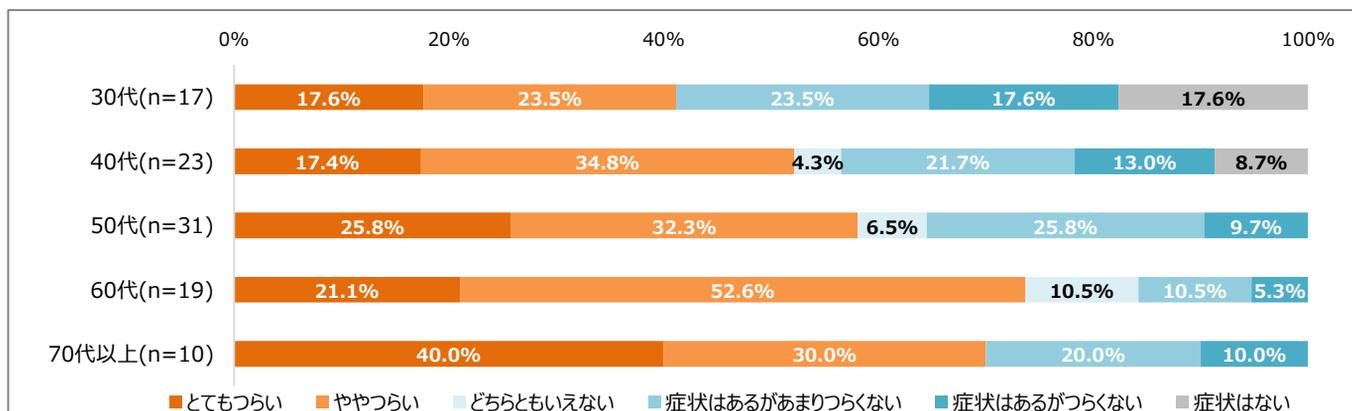
「症状はあるがあまりつらくない」、「症状はあるがつらくない」：つらさは感じていない として集計した。

年代別 口の乾きの自覚とそのつらさ

年齢が上がるにつれ、「つらさを感じている（とてもつらい、ややつらい）」と回答した割合が増加した。

60代患者の74%がつらさを感じていた。70代以上では、40%の患者が「とてもつらい」と回答し、年代別で最も高かった。

							SA
	とてもつらい	ややつらい	どちらともいえない	症状はあるがあまりつらくない	症状はあるがつらくない	症状はない	n %
30代(n=17)	3 17.6%	4 23.5%	0 0.0%	4 23.5%	3 17.6%	3 17.6%	17 100.0%
40代(n=23)	4 17.4%	8 34.8%	1 4.3%	5 21.7%	3 13.0%	2 8.7%	23 100.0%
50代(n=31)	8 25.8%	10 32.3%	2 6.5%	8 25.8%	3 9.7%	0 0.0%	31 100.0%
60代(n=19)	4 21.1%	10 52.6%	2 10.5%	2 10.5%	1 5.3%	0 0.0%	19 100.0%
70代以上(n=10)	4 40.0%	3 30.0%	0 0.0%	2 20.0%	1 10.0%	0 0.0%	10 100.0%
全体	23 23.0%	35 35.0%	5 5.0%	21 21.0%	11 11.0%	5 5.0%	100 100.0%

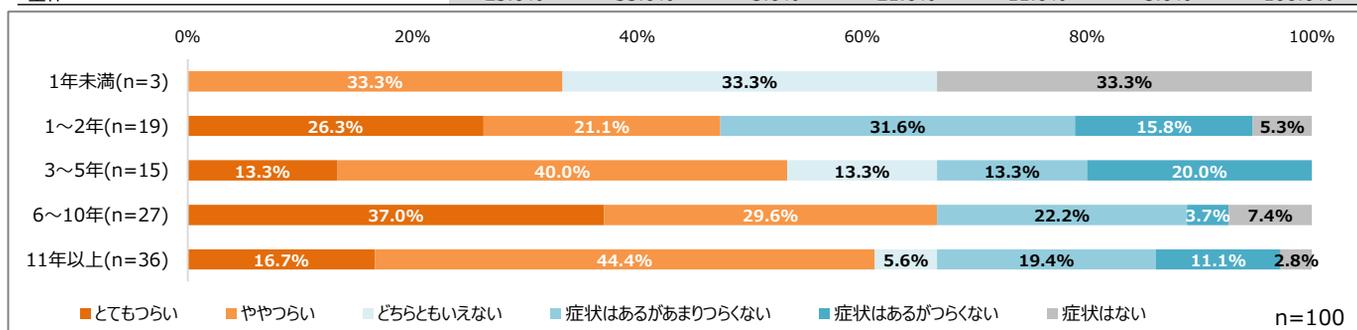


Q2.この3か月を振り返り、口の乾きに対して最も近いと思われるつらさの感じ方を教えてください。 (続き)

診断されてからの期間別 口の乾きの自覚とそのつらさ

診断されてからの期間が長くなると、「つらさを感じている（とてもつらい、ややつらい）」と回答した割合が増加した。
診断されてから「6～10年」、「11年以上」では、約3人に2人の患者がつらさを感じていた。

	SA						n %
	とてもつらい	ややつらい	どちらともいえない	症状はあるが あまりつらくない	症状はあるが つらくない	症状はない	
1年未満(n=3)	0 0.0%	1 33.3%	1 33.3%	0 0.0%	0 0.0%	1 33.3%	3 100.0%
1～2年(n=19)	5 26.3%	4 21.1%	0 0.0%	6 31.6%	3 15.8%	1 5.3%	19 100.0%
3～5年(n=15)	2 13.3%	6 40.0%	2 13.3%	2 13.3%	3 20.0%	0 0.0%	15 100.0%
6～10年(n=27)	10 37.0%	8 29.6%	0 0.0%	6 22.2%	1 3.7%	2 7.4%	27 100.0%
11年以上(n=36)	6 16.7%	16 44.4%	2 5.6%	7 19.4%	4 11.1%	1 2.8%	36 100.0%
全体	23 23.0%	35 35.0%	5 5.0%	21 21.0%	11 11.0%	5 5.0%	100 100.0%

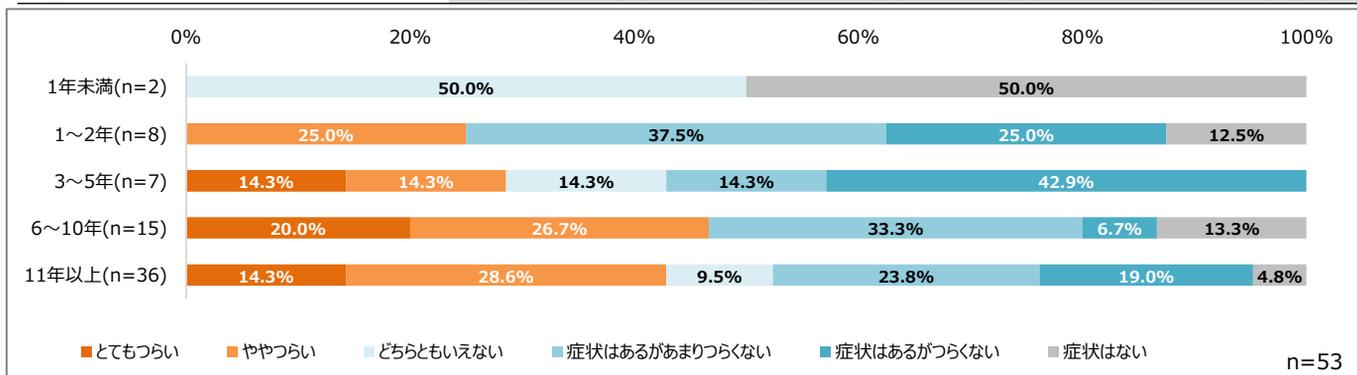


診断されてからの期間別 口の乾きの自覚とそのつらさ（「唾液分泌促進薬」を処方されたことがない患者）

「唾液分泌促進薬」を処方されていない患者においても、診断されてからの期間が長くなると、「つらさを感じている（とてもつらい、ややつらい）」と回答した割合が増加した。

診断されてから「6～10年」、「11年以上」では、4割強の患者がつらさを感じていた。

	SA						n %
	とてもつらい	ややつらい	どちらともいえない	症状はあるが あまりつらくない	症状はあるが つらくない	症状はない	
1年未満(n=2)	0 0.0%	0 0.0%	1 50.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 50.0%	2 100.0%
1～2年(n=8)	0 0.0%	2 25.0%	0 0.0%	3 37.5%	2 25.0%	1 12.5%	8 100.0%
3～5年(n=7)	1 14.3%	1 14.3%	1 14.3%	1 14.3%	3 42.9%	0 0.0%	7 100.0%
6～10年(n=15)	3 20.0%	4 26.7%	0 0.0%	5 33.3%	1 6.7%	2 13.3%	15 100.0%
11年以上(n=36)	3 14.3%	6 28.6%	2 9.5%	5 23.8%	4 19.0%	1 4.8%	21 100.0%
全体	7 13.2%	13 24.5%	4 7.5%	14 26.4%	10 18.9%	5 9.4%	53 100.0%



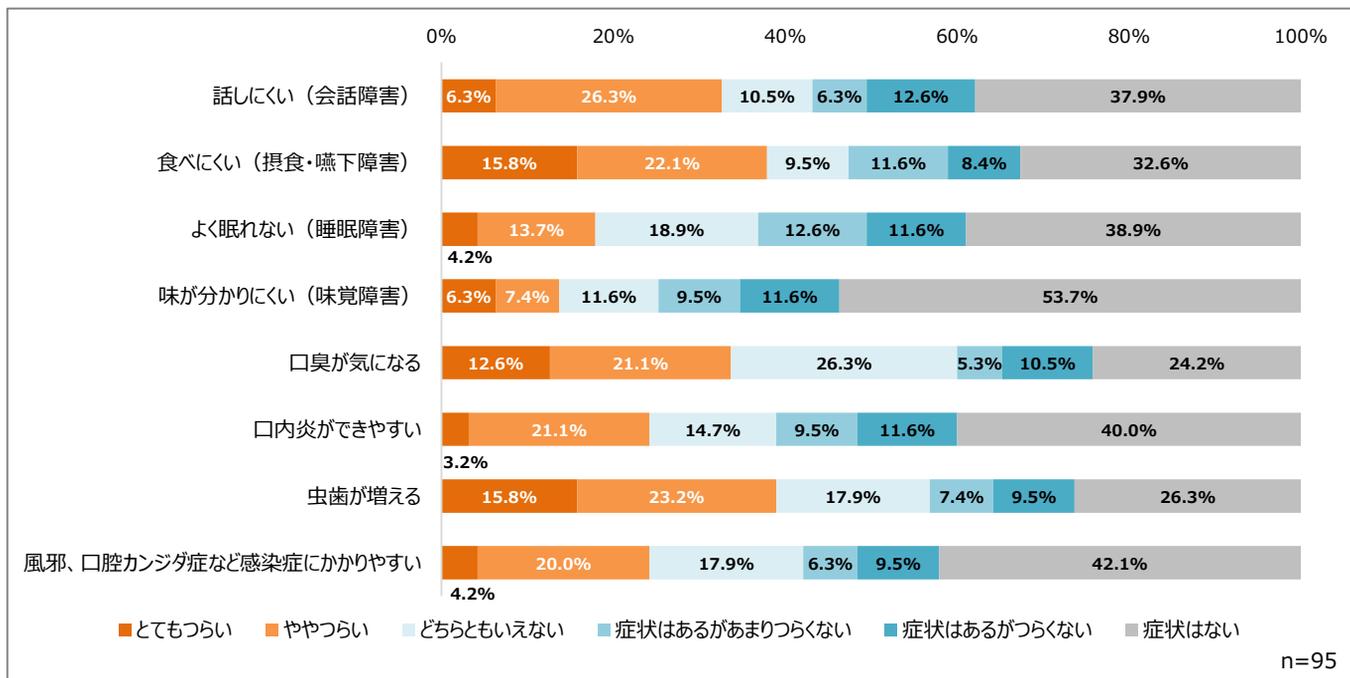
Q3.この3か月を振り返り、口の乾きによって起こった次の症状に対して、最も近いと思われるつらさの感じ方を教えてください。症状がない場合は、「症状はない」を選択してください。

※Q2で「口の乾きを自覚している」と答えた患者のみ回答

参考：Q2.この3か月を振り返り、口の乾きに対して最も近いと思われるつらさの感じ方を教えてください。

「とてもつらい」「ややつらい」と回答した患者の割合が最も多かったのは「虫歯が増える」で39%であった。次いで「食べにくい（摂食・嚥下障害）」が38%、「口臭が気になる」が34%、「話しにくい（会話障害）」が33%の順であった。

	とてもつらい	ややつらい	どちらとも いえない	症状はあるが あまりつらくない	症状はあるが つらくない	症状はない	n %
話しにくい（会話障害）	6 6.3%	25 26.3%	10 10.5%	6 6.3%	12 12.6%	36 37.9%	95 100.0%
食べにくい（摂食・嚥下障害）	15 15.8%	21 22.1%	9 9.5%	11 11.6%	8 8.4%	31 32.6%	95 100.0%
よく眠れない（睡眠障害）	4 4.2%	13 13.7%	18 18.9%	12 12.6%	11 11.6%	37 38.9%	95 100.0%
味が分かりにくい（味覚障害）	6 6.3%	7 7.4%	11 11.6%	9 9.5%	11 11.6%	51 53.7%	95 100.0%
口臭が気になる	12 12.6%	20 21.1%	25 26.3%	5 5.3%	10 10.5%	23 24.2%	95 100.0%
口内炎がでやすい	3 3.2%	20 21.1%	14 14.7%	9 9.5%	11 11.6%	38 40.0%	95 100.0%
虫歯が増える	15 15.8%	22 23.2%	17 17.9%	7 7.4%	9 9.5%	25 26.3%	95 100.0%
風邪、口腔カンジダ症など感染症にかかりやすい	4 4.2%	19 20.0%	17 17.9%	6 6.3%	9 9.5%	40 42.1%	95 100.0%

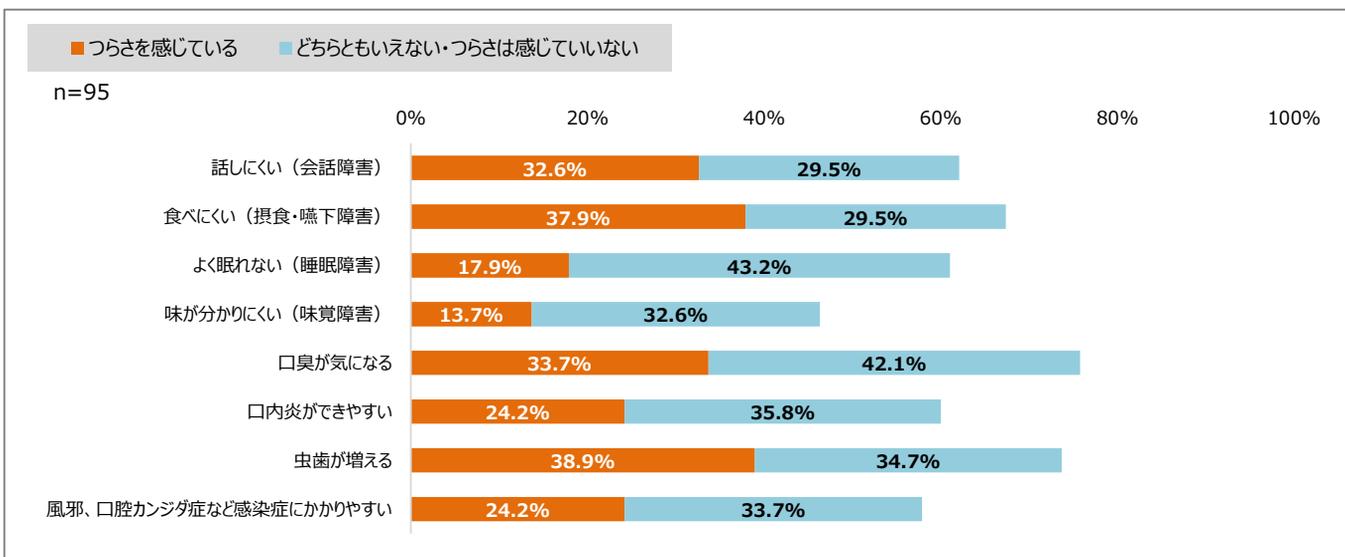


Q3.この3か月を振り返り、口の乾きによって起こった次の症状に対して、最も近いと思われるつらさの感じ方を教えてください。（続き）

n=95

SA

	つらさを感じている	どちらともいえない・つらさは感じていない	症状なし	n %
話にくい（会話障害）	31 32.6%	28 29.5%	36 37.9%	95 100.0%
食べにくい（摂食・嚥下障害）	36 37.9%	28 29.5%	31 32.6%	95 100.0%
よく眠れない（睡眠障害）	17 17.9%	41 43.2%	37 38.9%	95 100.0%
味が分かりにくい（味覚障害）	13 13.7%	31 32.6%	51 53.7%	95 100.0%
口臭が気になる	32 33.7%	40 42.1%	23 24.2%	95 100.0%
口内炎がでやすい	23 24.2%	34 35.8%	38 40.0%	95 100.0%
虫歯が増える	37 38.9%	33 34.7%	25 26.3%	95 100.0%
風邪、口腔カンジダ症など感染症にかかりやすい	23 24.2%	32 33.7%	40 42.1%	95 100.0%



「とてもつらい」、「ややつらい」：つらさを感じている

「症状はあるがあまりつらくない」、「症状はあるがつらくない」：つらさは感じていないとして集計した。

Q3.この3か月を振り返り、口の乾きによって起こった次の症状に対して、最も近いと思われるつらさの感じ方を教えてください。(続き)

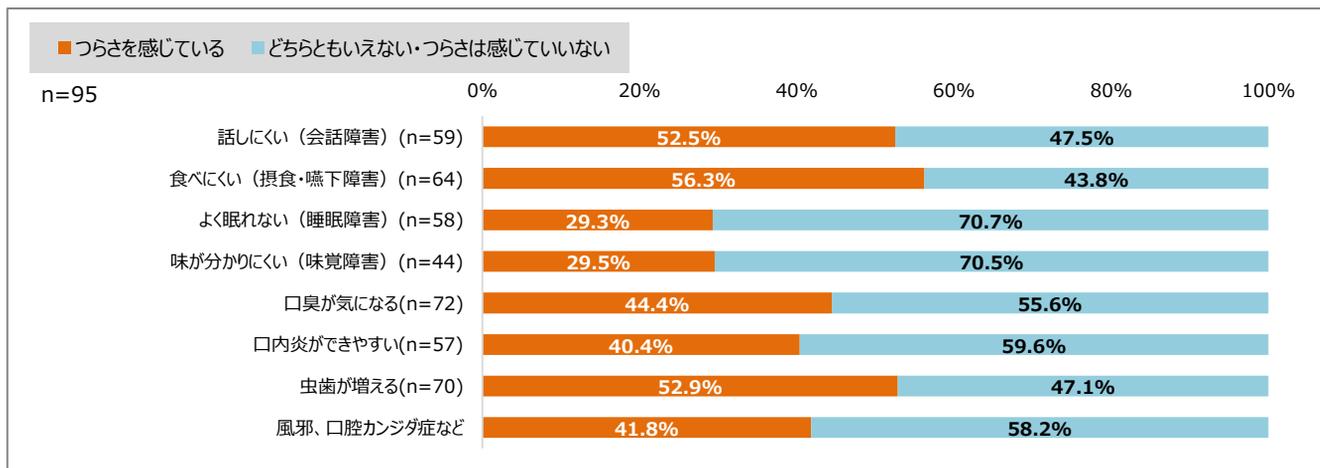
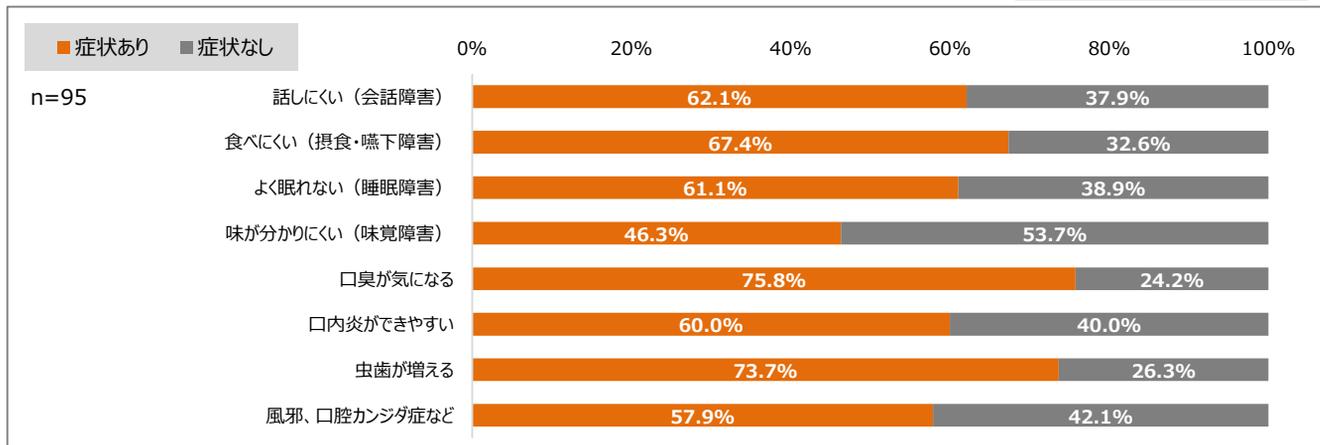
口の乾きにより発現する症状の自覚とそのつらさ

症状の自覚率が最も高かったのは「口臭が気になる」で患者の76%が自覚していた。

次いで、「虫歯が増える」が74%、「摂食・嚥下障害」が65%の順であった。

症状を自覚した患者のうち、「つらさを感じている(とてもつらい、ややつらい)」と回答した割合が最も高かったのは、「摂食・嚥下障害」で56%。以下、「虫歯が増える」が53%、「会話障害」が53%と続いた。

n=95	SA			SA		
	症状あり	症状なし	n %	つらさを感じている	どちらともいえない・つらさは感じていない	n %
話にくい(会話障害)	59	36	95	31	28	59
	62.1%	37.9%	100.0%	52.5%	47.5%	100.0%
食べにくい(摂食・嚥下障害)	64	31	95	36	28	64
	67.4%	32.6%	100.0%	56.3%	43.8%	100.0%
よく眠れない(睡眠障害)	58	37	95	17	41	58
	61.1%	38.9%	100.0%	29.3%	70.7%	100.0%
味が分かりにくい(味覚障害)	44	51	95	13	31	44
	46.3%	53.7%	100.0%	29.5%	70.5%	100.0%
口臭が気になる	72	23	95	32	40	72
	75.8%	24.2%	100.0%	44.4%	55.6%	100.0%
口内炎がでやすい	57	38	95	23	34	57
	60.0%	40.0%	100.0%	40.4%	59.6%	100.0%
虫歯が増える	70	25	95	37	33	70
	73.7%	26.3%	100.0%	52.9%	47.1%	100.0%
風邪、口腔カンジダ症など感染症にかかりやすい	55	40	95	23	32	55
	57.9%	42.1%	100.0%	41.8%	58.2%	100.0%



「とてもつらい」、「ややつらい」：つらさを感じている 「症状はあるがあまりつらくない」

「症状はあるがつらくない」：つらさは感じていない で集計した。

Q4.前問で解答した症状について、つらさの感じ方の具体的なエピソードを教えてください。

以下に代表的なエピソードを記す

<p>(会話障害) 話しにくい</p>	<ul style="list-style-type: none"> 発音がハッキリせず、何度も聞き直されることがよくある。 仕事柄、話すことが多いが、5分程度話すと口が乾き、咳き込みそうになる。口が回りにくいので語尾があいまいになったり、正確な言葉で話せなくなる。常にのど飴や飲み物を用意してマスクをして、乾きを防ぎながら仕事をしている。 薬を服用しないと話している時に口が乾いて、ろれつがまわりにくくなる。 仕事やコミュニケーションの会話にとまどう。常に水筒など水分が必要だが、水分で潤しても一時的。人工唾液スプレーを使うこともあるが、遠方移動時などは携帯するのは難しい。 娘と話している途中、「水飲んだら」と良く言われる。友人などには、シェーグレン症候群のことは伝えていないので会話に入っていけない場合が多い。おしゃべりが好きだったが、最近は聞く側ばかりで話すのが億劫になる。電話の時は、傍に水を置いておくが、滑舌が悪いので何度も聞きかえされる。シェーグレン症候群のため、唾液が出ず、歯が無くなってしまい、入れ歯になったため、なお話しにくくなった。
<p>(摂食・嚥下障害) 食べにくい</p>	<ul style="list-style-type: none"> 唾液がほとんど出ていないので、食べにくく、食べたものが口にとどまるので、水で流しこんだり、食べてすぐ歯磨きしないといけない。 水分がないとご飯やおかず、お菓子を食することができない。辛い物やしょっぱいものは、口内がヒリヒリして昔ほど食べられなくなってきた。 唾液が多いほうで飴などを舐めると一番先になくなっていたのだが、シェーグレン症候群になってからは、唾液がほとんど出ないので食べにくく水など飲み物がないと飲み込むことが出来ない。自分の歯が少なくなってしまったので、良くかんだり出来ないのも、味わうこと、おいしいと感じることが少なく飲み物と一緒に丸呑みすることが多い。食することが好きな私にとって、辛いし食べる速度も遅いので恥ずかしい思いをしている。 水分がないと食べ物を飲み込むことが困難。おせんべいなどの乾き物が食べられなくなった。飴ものどに詰まってしまうので、発病以来口にしていない。 咀嚼後の飲み込み時に、咽し返してしまうことが頻繁にある。
<p>(睡眠障害) よく眠れない</p>	<ul style="list-style-type: none"> 口が乾いて息が詰まりそうになって、目が覚める。 口腔と喉の乾燥感で、夜中に何度か目が覚めるので、熟睡できない。 口やのどが乾くので、水を飲んでからでないと寝られないが、2～3時間でトイレに行きたくなり起きてしまう。トイレに行くと、今度はのどが渴いて眠れない。水を飲むとすっかり目が覚めてしまい、寝付くまでにまた1時間以上かかる時がありなかなかまとめて眠れない。 口の中の痛みで目が覚める。 夜中に何度も水を飲むために起きる。
<p>(味覚障害) 味が分かりにくい</p>	<ul style="list-style-type: none"> 唾液がないからか、しょっぱい、ちょうどよい、うすいが今一つわからず最近家族から薄味にかえたの？と言われた。 調理時の味バランスが取りにくい。家族の好みや好物を作るのが難しい。極端な濃さや薄さになりがち。このきっかけで抑鬱傾向になる。 味が濃いもの、はっきりした味付けを好むようになり、塩分の取りすぎや、それにともないさらにのどが乾くことが気になる。 好きな物を食べても、味が分からないので、食べた気持ちにはならない。 1人で食事をしているときは、比較的に味わって食べることが出来るので良いが、友人たちとの食事会では、味わうより早く食べなくては、と思うのでおいしいと感じることが出来ない。

Q4.前問で解答した症状について、つらさの感じ方の具体的なエピソードを教えてください。(続き)

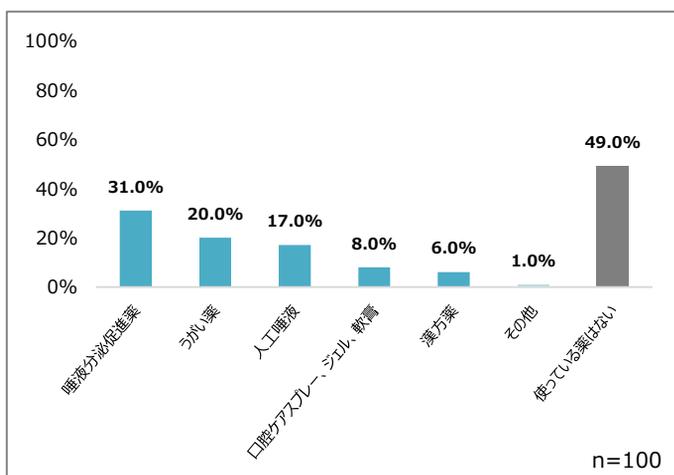
以下に代表的なエピソードを記す

<p>口臭が気になる</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 自分でも自分の息のにおいが分かるため、他の人に迷惑かけてないかいつも気になる。 • 自分では匂いがわからないが夫から匂うと言われたことがあり、口の乾き、舌の乾きでそうなのだと思います。 • 口の中がネバネバして自分でも匂いを感じることもあり、人と会う時は歯磨きやミント系のタブレット、グミなどが手放せない。 • 口の乾きで、朝は必ず臭う。対人会話に抵抗を感じる。日中はマスク常備で口の乾燥予防に努めるが、相手に小声で伝わるため、伝わりにくい時はマスクを外すが、不快感を表す相手も多く、自分より相手の反応が辛い。食事の都度歯を磨いても気になってしまい、匂いが強いものを食べるのを控えるようになった。 • 一番酷い時は舌に柔軟さを感じないほどパカパカに乾いてしまったこともあり舌苔で真っ白になってしまう。家族にも臭うと言われることがあり、舌ブラシで舌苔チェックは欠かせない。人と会う前は飴やタブレット、マウスウォッシュで気をつけるようにしている。
<p>口内炎がでやすい</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 口内の乾きで頬を噛むことが多くなり口内炎がでやすくなる。痛みがあるが薬を塗ってごまかしている。トマトなどはしみるので食べられない。 • 気が付いたらいつの間にか口内炎ができ、食事の時など沁みて痛くて食事を食べにくい。 • 食事の時、口の中を噛んでしまった時は必ず口内炎ができる。また、治りにくいです。 • 普通ならできないであろう熱さの飲み物を飲むと唇の内側が赤くなったり、強く歯を粘膜にあてるとそこに口内炎が簡単にできる。 • 歯磨き時の歯ブラシが少しでも劣化すると当たった場所から口内炎が多発し、大きさも2cm超えとなり、一度に5~6箇所発生する。
<p>虫歯が増える</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 定期検診が欠かせない。どんなに気をつけても虫歯がどんどんすごいスピードで進行して止まらない。唾液がないと辛いと言われている。入れ歯になることが怖い。 • 歯医者に自分の歯が全部なくなるのを覚悟してくださいと言われていて、部分入れ歯、ブリッジなどで対処していますが、歯がなくなるのはかなり辛いです。 • 食後にはできるだけ歯を磨いたり、うがいをしたりしているがほとんどの歯が虫歯になり、ほぼ義歯になっていて治療費もかさむ。 • 虫歯治療機会が増え、歯周病対策も欠かせない。気づかないうちに思った以上に進行していることがある。 • 食べ物カスが残ってはいけないと思い、歯磨きは人一倍時間をかけるようにはしていますが、3か月くらいで歯科検診に行くと必ず虫歯が出来ていて唾液のありがたさを知らされます。
<p>風邪、口腔カンジダ症など感染症に かかりやすい</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 冬場は風邪を引いたり、咳が出やすくなるので辛い。喉が乾いて痛くなると長くしゃべれなくて辛い。 • 家族が風邪をひくと抵抗力が低い為、すぐに自分も感染してしまう。 • 外出時や就寝時にはマスクをして寝るようにしているが、すぐに風邪にかかるので、数種類の風邪の市販薬を常備している。 • 舌に薬をつけ飲み込む作業をしなければいけない。 • 感染症にかかりやすく口腔カンジダは何度も罹ったことがあり食べることが出来ず、辛い。カンジダは舌に出来るので、味覚がわからなくなるので辛い。

Q5. 現在、口の乾きのために使っている薬について教えてください。

31%の患者が「唾液分泌促進薬」を使用していた。
次いで「うがい薬」が20%、「人工唾液」が17%の順であった。
一方、49%が「使っている薬はない」と回答した。

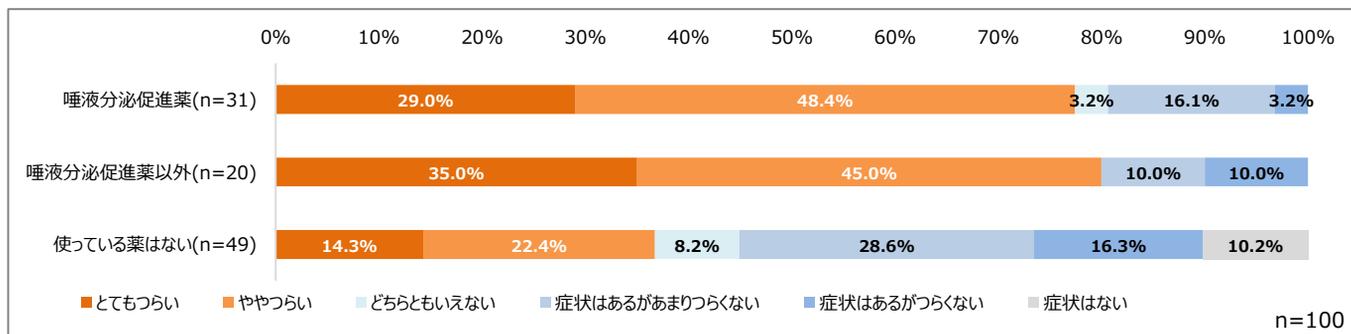
	n=100		MA	
	n	%	n	%
唾液分泌促進薬	31	31.0%	31	31.0%
うがい薬	20	20.0%	20	20.0%
人工唾液	17	17.0%	17	17.0%
口腔ケアスプレー、ジェル、軟膏	8	8.0%	8	8.0%
漢方薬	6	6.0%	6	6.0%
その他	1	1.0%	1	1.0%
使っている薬はない	49	49.0%	49	49.0%
総計	100	100.0%	100	132.0%



治療別 口の乾きの自覚とそのつらさ

唾液分泌促進薬を含む、口の乾きに対する治療を行っている患者の約8割が「とてもつらい」「ややつらい」と回答した。

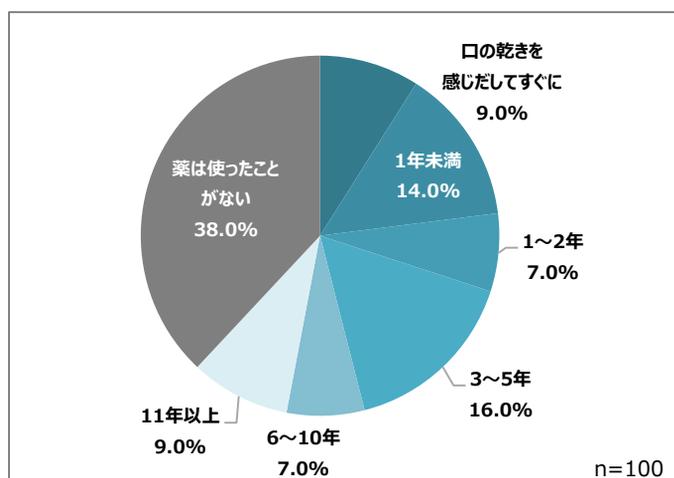
	n=100						MA
	とてもつらい	ややつらい	どちらとも いえない	症状はあるが あまりつらくない	症状はあるが つらくない	症状はない	
唾液分泌促進薬(n=31)	9 29.0%	15 48.4%	1 3.2%	5 16.1%	1 3.2%	0 0.0%	31
唾液分泌促進薬以外(n=20)	7 35.0%	9 45.0%	0 0.0%	2 10.0%	2 10.0%	0 0.0%	20
使っている薬はない(n=49)	7 14.3%	11 22.4%	4 8.2%	14 28.6%	8 16.3%	5 10.2%	49



Q6. 口の乾きのための薬は口の乾きを感じだしてから、どのくらい後より使い始めましたか。

38%が「薬を使ったことがない」と回答した。
次いで「3～5年」が16%、「1年未満」が14%の順であった。

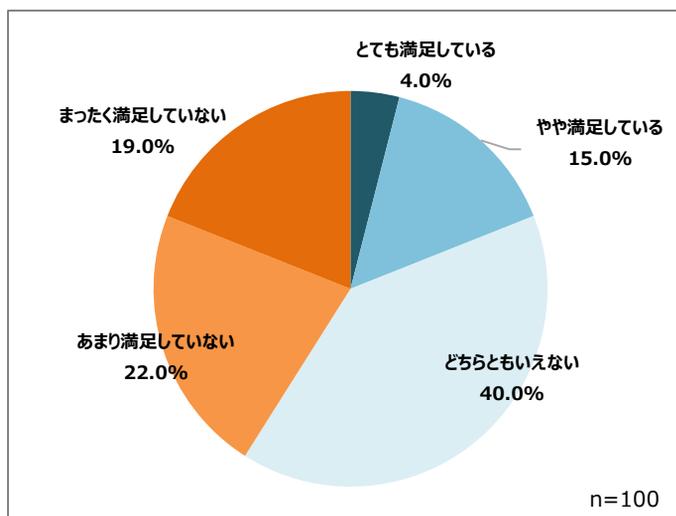
	n=100		SA	
	n	%	n	%
口の乾きを感じだしてすぐに	9	9.0%	9	9.0%
1年未満	14	14.0%	14	14.0%
1～2年	7	7.0%	7	7.0%
3～5年	16	16.0%	16	16.0%
6～10年	7	7.0%	7	7.0%
11年以上	9	9.0%	9	9.0%
薬は使ったことがない	38	38.0%	38	38.0%
総計	100	100.0%	100	100.0%



Q7.現在の口の乾きのための治療に満足していますか。

19%の患者が現在の治療に「とても満足している」「やや満足している」と回答した。
一方、41%の患者が「あまり満足していない」「まったく満足していない」と回答した。

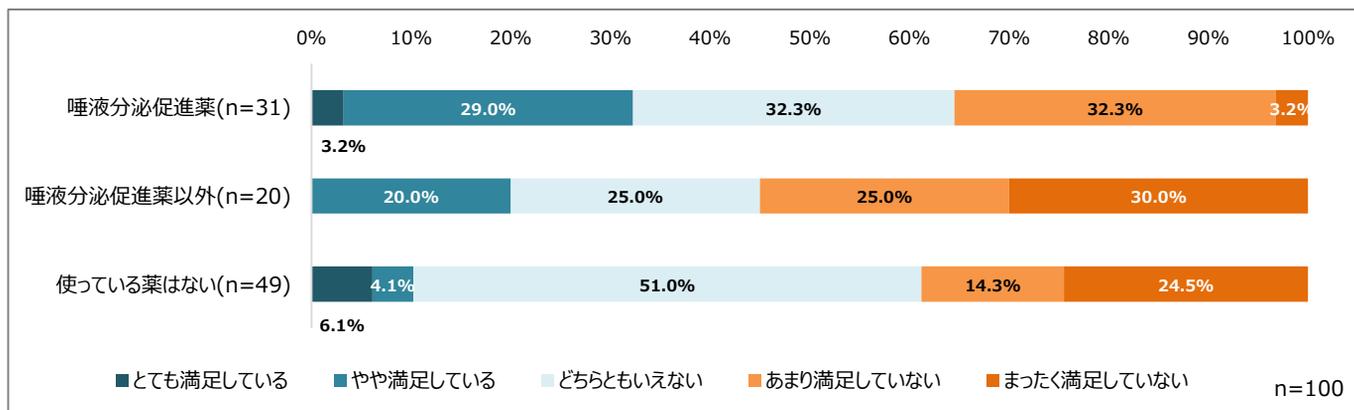
n=100		SA	
	n	%	
とても満足している	4	4.0%	
やや満足している	15	15.0%	
どちらとも言えない	40	40.0%	
あまり満足していない	22	22.0%	
まったく満足していない	19	19.0%	
総計	100	100.0%	



治療別 治療満足度

唾液分泌促進薬を使用している患者の32%が治療に対して満足しており、唾液分泌促進薬以外で治療を行っている患者や薬を使っていない患者より満足度が高かった。

n=100						SA
	とても満足している	やや満足している	どちらとも言えない	あまり満足していない	まったく満足していない	n %
唾液分泌促進薬(n=31)	1 3.2%	9 29.0%	10 32.3%	10 32.3%	1 3.2%	31 100.0%
唾液分泌促進薬以外(n=20)	0 0.0%	4 20.0%	5 25.0%	5 25.0%	6 30.0%	20 100.0%
使っている薬はない(n=49)	3 6.1%	2 4.1%	25 51.0%	7 14.3%	12 24.5%	49 100.0%

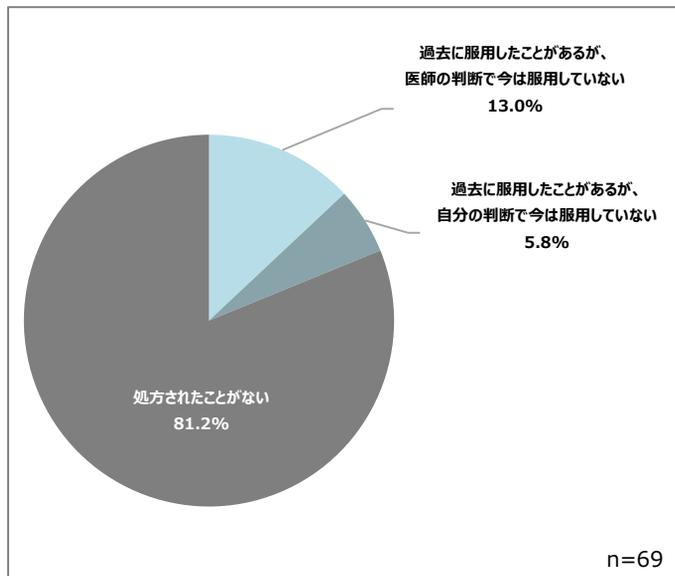


Q8. 唾液分泌促進薬を服用したことはありますか。 ※Q5で「唾液分泌促進薬」と答えた患者以外回答

参考：Q5. 現在、口の乾きのために使っている薬について教えてください。

81%の患者は過去から一度も「唾液分泌促進薬」の処方を受けたことがなかった。
一方、19%の患者が医師または自己判断で服用を中止していた。

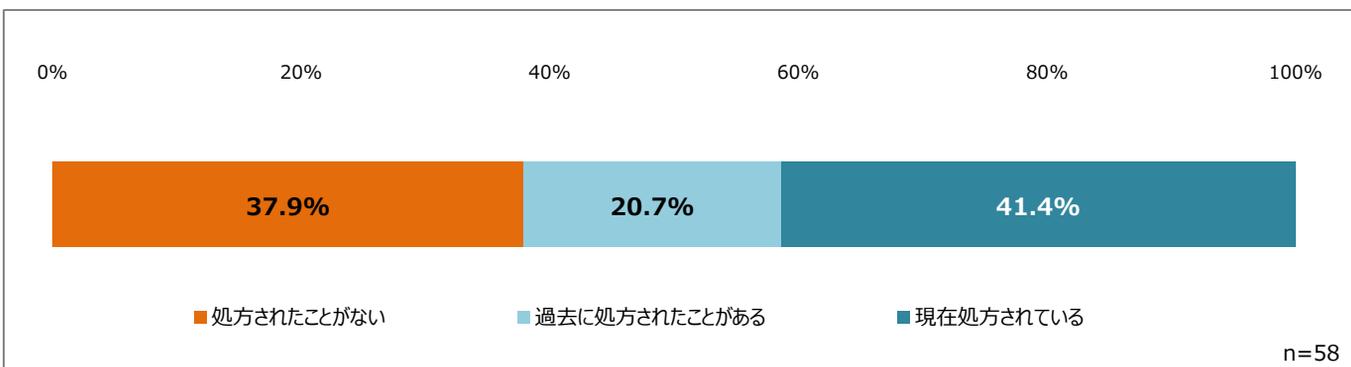
	n=69		SA	
	n	%	n	%
過去に服用したことがあるが、医師の判断で今は服用していない	9	13.0%		
過去に服用したことがあるが、自分の判断で今は服用していない	4	5.8%		
処方されたことがない	56	81.2%		
総計	69	100.0%		



現在、口の乾きによるつらさを感じている患者に対する唾液分泌促進薬の処方

現在、口の乾きによるつらさを感じている患者のうち38%の患者は、過去から一度も「唾液分泌促進薬」の処方を受けたことがなかった。

	n=58		SA	
	n	%	n	%
処方されたことがない	22	37.9%		
過去に処方されたことがある	12	20.7%		
現在処方されている	24	41.4%		
総数	58	100.0%		

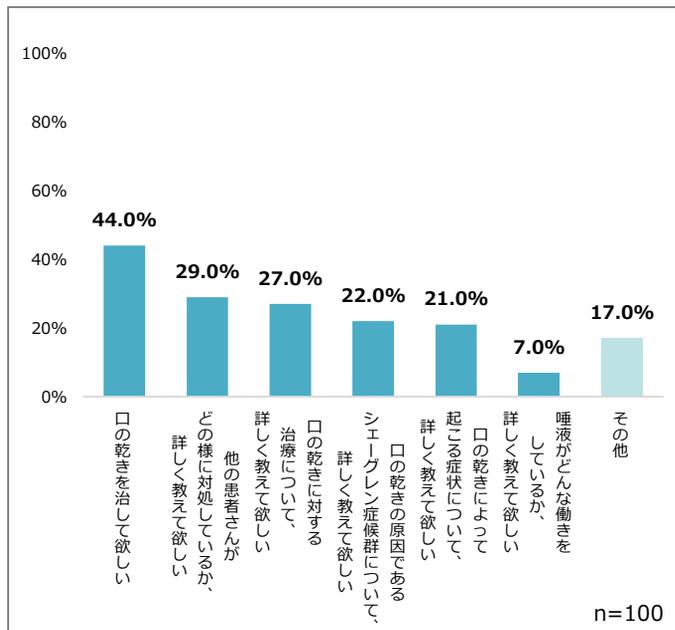


Q9.口の乾きについて、どんなことを医師に望んでいますか。

患者が医師に望んでいることは、「口の乾きを治して欲しい」が最も多く44%。

次いで、「他の患者さんがどの様に対処しているか、詳しく教えて欲しい」が29%、「口の乾きに対する治療について、詳しく教えて欲しい」が27%の順であった。

n=100	MA	
	n	%
口の乾きを治して欲しい	44	44.0%
他の患者さんがどの様に対処しているか、詳しく教えて欲しい	29	29.0%
口の乾きに対する治療について、詳しく教えて欲しい	27	27.0%
口の乾きの原因であるシェーグレン症候群について、詳しく教えて欲しい	22	22.0%
口の乾きによって起こる症状について、詳しく教えて欲しい	21	21.0%
唾液がどんな働きをしているか、詳しく教えて欲しい	7	7.0%
その他	17	17.0%
総計	100	167.0%



現在、口の乾きによるつらさを感じている患者が医師に望むこと

「つらさを感じている（とてもつらい、ややつらい）」患者が医師に望んでいることは、「口の乾きを治して欲しい」が最も多く60%。

次いで、「他の患者さんがどの様に対処しているか、詳しく教えて欲しい」が35%、「口の乾きに対する治療について、詳しく教えて欲しい」が33%の順であった。

n=58	MA	
	n	%
口の乾きを治して欲しい	35	60.3%
他の患者さんがどの様に対処しているか、詳しく教えて欲しい	20	34.5%
口の乾きに対する治療について、詳しく教えて欲しい	19	32.8%
口の乾きによって起こる症状について、詳しく教えて欲しい	14	24.1%
口の乾きの原因であるシェーグレン症候群について、詳しく教えて欲しい	13	22.4%
唾液がどんな働きをしているか、詳しく教えて欲しい	6	10.3%
その他	6	10.3%
総数	58	194.8%

